

## (2) 資産に含まれる文化財

### 整理表

#### < 百舌鳥古墳群 >

番号	名称	保護の主体	保護の種別	概要
1	仁徳陵古墳 (大山古墳)	国	陵墓	墳丘長 486m の前方後円墳。日本最大の古墳であり、エジプトのピラミッド、中国の秦始皇陵とともに世界三大墳墓の一つに数えられるほか、北側の反正陵古墳、南側の履中陵古墳と合わせて百舌鳥三陵と呼ばれている。後円部に長持形石棺、前方部に長持形石棺を納めた竪穴式石槨がある。前方部施設では副葬品として金銅装の甲冑などが確認されており、この甲冑を描いた図は堺市指定有形文化財ともなっている。三重の周濠をもつ。5 世紀後半。総面積: 464,123 m <sup>2</sup> 。
2	履中陵古墳 (ミサンザイ古墳)	国	陵墓	墳丘長 360m の前方後円墳。日本第 3 位の墳丘規模を誇る。現在は一重の周濠であるが、発掘調査により二重濠をもつことが確認されている。5 世紀前半。
3	ニサンザイ古墳 (東百舌鳥陵墓参考地)	国	陵墓	墳丘長 290m の前方後円墳。日本第 8 位の墳丘規模を誇る。現在は一重周濠だが、発掘調査で二重目の濠が確認されている。5 世紀後半。
4	御廟山古墳 (百舌鳥陵墓参考地)	国	陵墓	墳丘長 186m の前方後円墳。現在は一重の周濠だが、発掘調査で二重目の濠が確認されている。5 世紀後半。
5	乳岡古墳	国	史跡	墳丘長 155m の前方後円墳。現在、周濠は埋没しているが、発掘調査によりその存在が確認されている。4 世紀後半。国史跡指定面積: 5,529.25 m <sup>2</sup> 。
6	反正陵古墳 (田出井山古墳)	国	陵墓	墳丘長 148m の前方後円墳。百舌鳥古墳群の北端に位置する。現在は一重の周濠であるが、発掘調査により二重濠をもつことが確認されている。5 世紀後半。
7	いたすけ古墳	国	史跡	墳丘長 146m の前方後円墳。昭和 30 年頃に破壊の危機にあったが、市民を中心とした保存運動により保存された。堺市指定有形文化財の衝角付冑型埴輪が出土している。5 世紀中頃。国史跡指定面積: 24,183.00 m <sup>2</sup> 。
8	永山古墳 (仁徳陵古墳陪冢)	国	陵墓	墳丘長 104m の前方後円墳。仁徳陵古墳の陪塚として宮内庁が管理しているが、形態や規模から陪塚とは考えにくい。5 世紀後半。
9	長塚古墳	国	史跡	墳丘長 100m の前方後円墳。現在、周濠は埋没しているが、発掘調査によりその存在が確認されている。5 世紀後半。国史跡指定面積: 5,099.62 m <sup>2</sup> 。
10	丸保山古墳 (仁徳陵古墳陪冢)	国	陵墓・史跡	墳丘長 87m の前方後円墳で前方部の短い帆立貝形を呈する。仁徳陵古墳の陪塚として後円部は宮内庁が、前方部と周濠は堺市が管理している。5 世紀中～後半。国史跡指定面積: 8,190.35 m <sup>2</sup> 。
11	御廟表塚古墳		未指定	墳丘長 75m の前方後円墳。独立した古墳である。5 世紀中～後半。
12	銭塚古墳		未指定	墳丘長 72.5m の前方後円墳。独立した古墳である。5 世紀中～後半。
13	定の山古墳		未指定	墳丘長 69m の前方後円墳。独立した古墳で城の山公園内で保存されている。5 世紀中～後半。
14	竜佐山古墳 (仁徳陵古墳陪冢)	国	陵墓	墳丘長 67m の前方後円墳。仁徳陵古墳の外周にあり、陪塚として宮内庁が管理。5 世紀中～後半。
15	収塚古墳	国	史跡	墳丘長 65m の前方後円墳で前方部の短い帆立貝形を呈する。仁徳陵古墳外周にあり、陪塚と考えられる。大仙公園で保存。5 世紀中～後半。国史跡指定面積: 743 m <sup>2</sup> 。

16	孫太夫山古墳 (仁徳陵古墳陪冢)	国	陵墓	墳丘長 56m の前方後円墳で前方部の短い帆立貝形を呈する。仁徳陵古墳の外周にあり、陪塚として宮内庁が管理。5 世紀中～後半。
17	旗塚古墳		未指定	墳丘長 56m の前方後円墳で前方部の短い帆立貝形を呈する。独立した古墳である。5 世紀中～後半。大仙公園で保存。
18	文珠塚古墳	国	史跡	墳丘長 55m の前方後円墳。百済川をはさんだ南の丘陵上に独立して位置する。5 世紀中～後半。国史跡指定面積: 1,650.00 m <sup>2</sup> 。
19	かぶと塚古墳		未指定	墳丘長 50m の前方後円墳で前方部の短い帆立貝形を呈する。大塚山古墳の陪塚の可能性はある。
20	菰山塚古墳 (仁徳陵古墳陪冢)	国	陵墓	墳丘長 36m の前方後円墳。仁徳陵古墳の外周にあり、陪塚として宮内庁が管理。
21	万代山古墳		未指定	後円部径 25m の前方後円墳。御廟山古墳の陪塚と考えられる。
22	飛鳥山古墳		未指定	前方後円墳と考えられる。独立した古墳である。陵南北公園内で保存。
23	寺山南山古墳		未指定	墳丘一辺 38m の方墳。周濠がめぐる。独立した古墳である。履中陵古墳の外周にあり、陪塚と考えられる。大仙公園で保存されている。
24	善右エ門山古墳		未指定	墳丘一辺 30m の方墳。いたすけ古墳の外周にあり、陪塚と考えられる。
25	銅亀山古墳 (仁徳陵古墳陪冢)	国	陵墓	墳丘一辺 26m の方墳。仁徳陵古墳の外周にあり、陪塚として宮内庁が管理。
26	鈴山古墳 (反正陵古墳陪冢)	国	陵墓	墳丘一辺 22m の方墳。反正陵古墳の外周にあり、陪塚として宮内庁が管理。
27	天王古墳 (反正陵古墳陪冢)	国	陵墓	墳丘一辺 19m の方墳。反正陵古墳の外周にあり、陪塚として宮内庁が管理。
28	大安寺山古墳 (仁徳陵古墳陪冢)	国	陵墓	墳丘直径 60m の円墳。仁徳陵古墳の第一堤上にあり、陪塚として宮内庁が管理。
29	グワシヨウ坊古墳		未指定	墳丘直径 58m の円墳。周濠がめぐる。独立した古墳である。古墳林は植生観察林ともなっている。大仙公園で保存。
30	茶山古墳 (仁徳陵古墳陪冢)	国	陵墓	墳丘直径 55m の円墳。仁徳陵古墳の第一堤上にあり、陪塚として宮内庁が管理。
31	樋の谷古墳 (仁徳陵古墳陪冢)	国	陵墓	仁徳陵古墳の外濠内にあり、陪塚として宮内庁が管理。
32	源右衛門山古墳 (仁徳陵古墳陪冢)	国	陵墓	墳丘直径 40m の円墳。仁徳陵古墳の外周にあり、陪塚として宮内庁が管理。
33	塚廻古墳	国	史跡	墳丘直径 35m の円墳。仁徳陵古墳の外周にあり、陪塚と考えられる。明治 45 年に発掘調査が行われ、勾玉や鏡などが出土した。国史跡指定面積: 704 m <sup>2</sup> 。
34	七観音古墳		未指定	墳丘直径 25m の円墳。履中陵古墳の外周にあり、陪塚と考えられる。大仙公園で保存。
35	狐山古墳 (仁徳陵古墳陪冢)	国	陵墓	墳丘直径 23m の円墳。仁徳陵古墳の外周にあり、陪塚として宮内庁が管理。
36	経堂古墳 (履中陵古墳陪冢)	国	陵墓	規模不詳の円墳。履中陵古墳からやや離れたところにあり、陪塚として宮内庁が管理。
37	鎮守山塚古墳		未指定	墳丘直径 20m の円墳。独立した古墳である。
38	舞台塚古墳		未指定	墳丘直径 20m の円墳。ニサンザイ古墳の外周にあり、陪塚と考えられる。陵南東公園内で保存。
39	ドンチャン山 2 号墳		未指定	墳丘直径 20m の円墳。独立した古墳である。陵南中央公園内で保存。
40	鏡塚古墳		未指定	墳丘直径 15m の円墳。仁徳陵古墳の外周にあり、陪塚と考えられる。
41	聖塚古墳		未指定	墳丘直径 15m の円墳。ニサンザイ古墳の外周にあり、陪塚と考えられる。
42	正楽寺山古墳		未指定	墳丘直径 15m の円墳。独立した古墳である。陵南中央公園内で保存。
43	東上野芝町 1 号墳		未指定	規模不詳の円墳。独立した古墳である。

<古市古墳群>

番号	名称	保護の主体	保護の種別	概要
44	応神陵古墳 (誉田御廟山古墳)	国	陵墓・史跡	墳丘長 425m前方後円墳。後円部直径 250m、高さ 35m、前方部幅 300m、高さ 36mを測る。墳丘の周囲には幅 54m以上の内濠と幅 60mの内堤、さらに外側には幅 12～32mの外濠が掘られ、西側と北側には外堤も築かれている。これらを含めた全長は 700mを越え、総面積は 345,000 m <sup>2</sup> 以上となる。体積では仁徳陵古墳を凌ぎ 143 万m <sup>3</sup> 以上と計算される。5 世紀中頃。国史跡指定面積: 21,406.41 m <sup>2</sup> 。
45	仲姫陵古墳 (仲津山古墳)	国	陵墓	墳丘長 290m の前方後円墳。一重の幅の狭い濠と幅の広い堤を持つ。後円部側に陪塚と考えられる鍋塚古墳・高塚山古墳を配置している。5 世紀前半。
46	仲哀陵古墳 (岡ミサンザイ古墳)	国	陵墓	墳丘長 242m の前方後円墳。一重の幅の広い濠と幅の狭い堤を持つ。後円部側に陪塚と考えられる鉢塚古墳がある。5 世紀末～6 世紀初頭。
47	允恭陵古墳 (市野山古墳)	国	陵墓	墳丘長 230m の前方後円墳。二重の濠と堤を持ち、周囲に 7 基の陪塚を配置している。5 世紀後半。
48	墓山古墳 (応神陵古墳陪塚)	国	陵墓・史跡	墳丘長 225m の前方後円墳。周濠と堤を持つ。周囲に陪塚として方墳 4 基がある。後円部頂に長持形石棺が確認されている。5 世紀前半。国史跡指定面積: 45,591.86 m <sup>2</sup> 。
49	津堂城山古墳 (藤井寺陵墓参考地)	国	陵墓・史跡	墳丘長 208m の前方後円墳。二重の濠と堤を持つ。古市古墳群中最古の巨大古墳。後円部頂に長持形石棺を納めた竪穴式石槨が確認されており、鏡、玉、腕輪形石製品などが出土している。内濠内に島状の施設を持ち、水鳥形埴輪(国重要文化財)を配置している。4 世紀後半。国史跡指定面積: 45,224.81 m <sup>2</sup> 。
50	日本武尊白鳥墓古墳 (前の山古墳)	国	陵墓	墳丘長 200mの前方後円墳。後円部径 106m、前方部幅 165m を測る。前方部の幅が後円部の直径を上回り、高さも前方部が約 3m高いなどの特徴がある。くびれ部北側には造出しをもち、30～50mの周濠を持つ。5 世紀後半。
51	野中宮山古墳	-	未指定	墳丘長 154m の前方後円墳。前方後円形の周濠を持ち、南側にのみ造出しを持つ。5 世紀前半。
52	古室山古墳	国	史跡	墳丘長 150m の前方後円墳。一重の周濠を持つ。4 世紀後半。国史跡指定面積: 28,727.36 m <sup>2</sup> 。
53	仁賢陵古墳 (ボケ山古墳)	国	陵墓	墳丘長 122m の前方後円墳。盾形の周濠を持つ。6 世紀前半。
54	安閑陵古墳 (高屋城山古墳)	国	陵墓	墳丘長 122mの前方後円墳。後円部直径 78m、高さ 13m、前方部幅 100m、高さ 12.5mを測る。墳丘は、中世の高屋城の築造で外形が大きく改変されている。円筒埴輪等の出土に加え、江戸時代には墳丘から正倉院御物と同種のペルシャ製ガラス椀が出土したとされる。6 世紀前半。
55	清寧陵古墳 (白髪山古墳)	国	陵墓	墳丘長 115mの前方後円墳。後円部直径 63m・高さ 10.5m、前方部幅 128m、高さ 11mを測り、前方部幅が後円部直径の2倍に達している。近年の調査で西側以外は二重濠が廻ることが確認された。6 世紀前半。
56	二ツ塚古墳 (応神陵古墳陪塚)	国	陵墓	墳丘長 110mの前方後円墳。東及び北側には幅約 20mの周濠がある。
57	大鳥塚古墳	国	史跡	墳丘長 110m の前方後円墳。一重の周濠を持つ。5 世紀前半。国史跡指定面積: 5,086 m <sup>2</sup> 。
58	はざみ山古墳	国	史跡	墳丘長 103m の前方後円墳。盾形の周濠を持つ。5 世紀中頃。国史跡指定面積: 15,025 m <sup>2</sup> 。
59	峯ヶ塚古墳	国	史跡	墳丘長 96mの前方後円墳。二重濠を有し、墓域は東西 168m×南北 148m を測る。後円部墳頂の石室からは、銀や鹿角製などの装飾品を付けた大刀をはじめ、武器や武具などの副葬品と金銅製の冠帽や帯金具、銀製の垂飾りや花形飾り、ガラス玉や石製玉類などが多数出土した。国史跡指定面積: 9,381 m <sup>2</sup> 。

60	春日山田皇后陵古墳 (高屋八幡山古墳)	国	陵墓	墳丘長 90mの前方後円墳。高屋城築城や整地の際に大きく削平され、現状では一辺 40mの方形をなす。6世紀初頭。
61	鉢塚古墳	国	史跡	墳丘長 60mの前方後円墳。周濠を持つ。5世紀末から6世紀初頭。国史跡指定面積: 3,713.39 m <sup>2</sup> 。
62	稻荷塚古墳	-	未指定	墳丘長 50mの前方後円墳で帆立貝形を呈する。後円部径 39m、前方部長 11m。馬蹄形の周濠を持つ。6世紀前半。
63	小白髪山古墳 (清寧陵古墳陪冢)	国	陵墓	墳丘長 46mの前方後円墳。後円部直径 24m、高さ 4.8m、前方部幅 23m、高さ 4.5mを測る。墳丘の周囲に盾形の周濠を有す。6世紀前半。
64	向墓山古墳 (応神陵古墳陪冢)	国	陵墓	墳丘東辺 68m、西辺及び南北両辺 62mの方墳で、墳丘斜面には葺石を施し、西側では墓山古墳外堤と区画する溝を有するが、古墳の南西隅と北辺部に墓山古墳外堤につながる陸橋をもつ。
65	浄元寺山古墳	-	未指定	墳丘一辺 67mの方墳。墓山古墳の前方部外堤に平行する。墳丘は二段築成で斜面には葺石が施され、周濠を持つ。墓山古墳の陪塚と考えられる。5世紀中頃。
66	雄略陵古墳 (島泉平塚古墳)	国	陵墓	墳丘一辺約 50m、高さ約 8mの方墳。二段ないしは三段築成で墳頂に広い平坦面を有する。
67	中山塚古墳 (仲姫陵古墳陪冢)	国	陵墓	墳丘一辺 50mの方墳。八島塚古墳・助太山古墳とともに南辺を揃えて築かれており、周濠を共有する。3基を総称して「三ツ塚」と呼ばれている。八島塚古墳との間の周濠内より修羅が出土し国重要文化財に指定されている。
68	八島塚古墳 (仲姫陵古墳陪冢)	国	陵墓	墳丘一辺 50mの方墳。中山塚古墳との間の周濠内より修羅が出土し国重要文化財に指定されている。
69	鍋塚古墳	国	史跡	墳丘一辺 50mの方墳。二段に築かれ、高さ 7mを測る。仲姫陵古墳の後円部側に位置し、陪塚と考えられる。5世紀前半。国史跡指定面積: 1,371 m <sup>2</sup> 。
70	東山古墳	-	未指定	墳丘一辺 50mの方墳。応神陵古墳の外堤に平行し、周濠を持つ。応神陵古墳の陪塚と考えられる。5世紀中頃。
71	西馬塚古墳 (応神陵古墳陪冢)	国	陵墓	墳丘一辺約 45mの方墳。墳丘は二段に築かれ、周溝底からの高さ 10mを測る。周溝は幅約 7m、墳丘テラスや堤上には埴輪が並ぶ。5世紀後半。
72	栗塚古墳 (応神陵古墳陪冢)	国	陵墓	墳丘一辺約 43mの方墳。二段に築成され、高さ約 5m。周囲には幅約 7.5mの周濠を有する。円筒埴輪は応神陵古墳と同種であり、主墳と陪塚の関係を裏付ける。家や人物、犬・馬、盾などの多様な形象埴輪が出土している。5世紀中頃。
73	野中古墳	国	史跡	墳丘一辺 37mの方墳。墳頂部から5列の木箱に納められた11領の甲冑や鉄鏃、鉄刀など多数の副葬品が出土した。周濠を持ち、土橋状の施設が確認されており、周濠内より多量の滑石製模造品が出土している。墓山古墳の陪塚と考えられる。5世紀後半。国史跡指定面積: 1,926 m <sup>2</sup> 。
74	助太山古墳	国	史跡	墳丘一辺 36mの方墳。3基からなる三ツ塚の中で他の2基より小さい。国史跡指定面積: 1,232 m <sup>2</sup> 。
75	割塚古墳	府	府史跡	墳丘一辺 30m程度の方墳。4世紀後半。府史跡指定面積: 393 m <sup>2</sup> 。
76	東馬塚古墳 (応神陵古墳陪冢)	国	陵墓	墳丘一辺 30mの方墳。応神陵古墳の東に位置する。また、墳丘裾部分には円筒埴輪が並べられていた。
77	隼人塚古墳 (雄略陵古墳陪冢)	国	陵墓	墳丘一辺約 20mの方墳状を呈する。雄略陵古墳の後円部周濠から北へ約 80mに位置し、江戸時代の絵図にも描かれている。
78	野々上古墳 (仁賢陵古墳陪冢)	国	陵墓	墳丘一辺 20mの方墳。陪塚として宮内庁で管理されている。4世紀後半。
79	松川塚古墳	-	未指定	墳丘一辺 20mの方墳。現在は埋没した推定幅 6mの周濠を持つ。
80	赤面山古墳	国	史跡	墳丘一辺 15mの方墳。高速道路建設の際に保存された。国史跡指定面積: 185 m <sup>2</sup> 。

81	雄略陵古墳 (島泉丸山古墳)	国	陵墓	墳丘直径約 75mの円墳。高さは約 8mで、現状では二段築成。周濠は南側で約 20mの幅を有するが、北側は後世に拡張されている。
82	青山古墳	国	史跡	墳丘直径約 60m の円墳。墳丘は二段に築成され、方形の造出しを持つ。一重の周濠を持つ。5 世紀中頃。国史跡指定面積: 5,102 m <sup>2</sup> 。
83	誉田丸山古墳 (応神陵古墳陪冢)	国	陵墓	墳丘直径約 50mの円墳。応神陵古墳の前方部北側内堤の外側に築かれ、高さ約 6mを測る。造り出しを有する可能性があり、濠をめぐるせ、葺石を施す。円筒埴輪や形象埴輪が出土している。江戸時代には金銅製龍文透彫鞍金具 2 具(国宝)をはじめとする馬具、武器等が出土した。
84	宮の南塚古墳 (允恭陵古墳陪冢)	国	陵墓	直径 40mの円墳。陪塚として宮内庁が管理。5 世紀後半。
85	蕃所山古墳	国	史跡	墳丘墳丘直径 22m、高さ約 3m を測る円墳。宅地開発の際に保存され、開発地内に遺された。国史跡指定面積: 397.35 m <sup>2</sup> 。
86	衣縫塚古墳 (允恭陵古墳陪冢)	国	陵墓	墳丘直径 20mの円墳。陪塚として宮内庁が管理。5 世紀後半。
87	サンド山古墳 (応神陵古墳陪冢)	国	陵墓	円墳と考えられるが詳細は不明。現況からは直径 30m程度と推定できる。陪塚として宮内庁で管理されているが、陪塚とは考えにくい。

陪冢(ばいちょう)と陪塚(ばいづか)については、宮内庁の名称は陪冢、それ以外は陪塚とした。